



Q.1 あなたは最近、ブリュッセルのアクセシブルアートフェアに参加した後、東京に戻ってきました。旅どうだった？

学生時代に一度訪れて以来 30 年ぶりのことでした。

アクセシブル・アートフェアの会期中、私は自身のブースを訪れる方々に「一番好きな作品はどれでしょう？マーケティングの一環としてご教授ください」と質問をしました。ベルギーの方々にはシンプルでスタイリッシュなアート・デザインを好み、一般人でもどのような点がどんな風に好きなのか、時には手厳しくいろんな意見を伺うことが出来、お気に入り No.1 の作品を知ることが出来ました。

—織物作品について；

ラフィアを知っている世代の方々、特に年配の女性よりお褒めの言葉を頂くことが多くベルギーに出展した目的でもありました。スタッフやアーティストの母上方が御子弟に通訳させ賞賛のお言葉を下さったことは特に感慨深い体験でした。

—土佐和紙にシャギーラグフレーム作品について；

「こんな今までみたことない」「あまりにも珍しすぎてどう評価していいか判らない」等々。若い女性オーナーにお買い上げいただき、自身の作品がディスプレイされた写真を送っていただいたことは何事にも代えがたい出来事で、ブリュッセルで Aesthetica 誌を受取り、彼女にお渡し出来たことはまた嬉しい体験でした。

30 年前一体誰がこんな体験が出来ると想像したでしょう？

Q.2. 民俗芸術から現代美術を反映した技術に移行するにあたり、新しい形態の中でテーマや感情を表現することに挑戦しましたか？

宇宙は織物に例えられますがデジタルに依存しない手織物作品では縦軸と横軸の 2 次元的表現しか出来ません。9x9 コンポジションシリーズでは将棋盤と同じ 81 マスから宇宙軸の秘密を連想出来るようシャギーラグ手法のようなミックスカラーズで立体感にチャレンジしました。友禅きもの加工で使う柿渋の型紙を使った金箔模様による感情表現も最近の新たな試みです。私たちの人生の無常さと内なる魂の永続性のような世界感を示すことを試みました。

—流水に浮かぶ木葉、葉陰、INSIDE-内なる魂...またかくのごとし

Q.3. 現代美術に移行する際に、どんな要素が得られ、失われていますか？ さまざまなフォームで作業することの利点と欠点は何ですか？

1. どんな要素が得られ、失われていますか？

-もし私がきもの職人になりたかったならば、365 日織機の前に座って均一な織物を織り続けなければ認められません。あるいは徒弟制度の中でマスターと共に暮らして修行しなければなりません。私はきもの会社で働いている時代にそのような工芸作家達を見ました。商業アートワークのフィールドではひとたび設置すれば長期間大気に晒され埃がたまり、ファイバーにとっては過酷な環境下で維持させる工夫が必要です。企業の内部に設置されるので一般の人々に知られることなくクライアントのメンテナンス状況や会社の方針によっていずれは劣化しスクラップになる運命を持ちあわせています。

現代アートはその定義が曖昧で自由なので、私が 30 年間体験したこれらの問題を取り除き、自分次第で居場所を作ることが出来るという要素が得られます。

制作を深化・継続させなければ失うものがある、それはすべてのジャンルで共通です。

2. さまざまなフォームで作業することの利点と欠点

-商業的アートワークに関しては毎回違う場所、違う条件で図面の上を意識の中で歩きながら浮かび上がるデザインを具現化しているのと同じフォームがないのは必然でした。一人のアーティストとして毎回違うフォームで制作するというアイデンティティを疑われる欠点がありますが、基本的なテクニックは捲く・巻く・織る・振る—シンプルな技法と逆説的な素材を組み合わせるだけで、私の人生がトータライズされた時に全容が判ればよいという楽しみを利点として捉えています。

Q4.あなたの作品の多くは、あなたが織った織物で作られています。このプロセスの側面は、あなたにとってどれほど重要ですか？

機械やデジタル、AIでは出来ない部分をパーツとして或いは全体的に織物を使っています。植物繊維そのものは切れ易く弱い。その弱きものは集めて束ね糸を績む、織ることにより強きものへと変容する。太古の昔から人類にとって必要不可欠な存在—植物のDNAの軌跡を衣服ではなくアートで示すことは自身のアイデンティティーを知る上で重要なプロセスです。丁度数千年前の麻繊維が発掘されてその存在を示すように、過去・現在・未来と時空の旅をすることが可能です。

Q5.あなたの芸術によって表現されたテーマは、使用される植物の場所を考慮して、文化に特有ですか、それとも何らかの形で普遍的ですか？

古くから植物繊維の採取技術を駆使して、人間は様々なアイデアや創意工夫を受け継いできました。日本だけでなく、世界中でその軌跡は残されています。ある地域では紛争によってその継承が経たれ、ある地域では技術の発達によりオートメーション化されている。南北に長い国土を持つ日本ではその気候の違いから多種多様な植物が存在するため民芸染織素材もきもの文化の一部として多様に存在します。先人たちの努力により第二次世界大戦後も継承復興されているのは奇跡です。

私に関しては、先祖が北緯33度ライン（一年を通じていろいろな植物を収穫するのに適している）に山を持っていたおかげで、伝統工芸きもの産地とは関係なく多種素材を自分で採集することが出来ました。

Q6.あなたはあなたの作品のインスピレーションをどこで見つけるのですか？

1. INSIDE – from my inner soul

2. 逆説的コンビネーション(宇宙を組成する物質と非物質のような関係性、±0)

—もし私が航空宇宙エンジニアである夫と30年間も一緒に暮らし、共にSF映画を見たり最先端科学について議論し合う毎日がなかったら、私はつまらないアーティストになっていたかもしれない、あるいはアーティストを続けていなかったかもしれません。

Q7.コンセプチュアル・アートワークを通して表現している精神的なテーマは何ですか？

INSIDE -内なる心、

それぞれの作品は表現スタイルが違えども共通のコンセプトとテーマを持ち合わせています。

Q8.着物に関するあなたの仕事について教えてください。

大学卒業時、大学院ではなく就職を選択し、きもの会社に雇用均等法3期生として正社員入社しました。

1988年から1990年にかけて、「人間国宝」をはじめとする様々なきもの作家が作った着物を商品管理する部署で働きました。同僚や上司がいないとき、一般的に見ることは出来ない特別な工芸作品を商品管理の立場で好きなだけ見て学ぶことができました。

この経験は、後に染織工芸技術を深く洞察する大きな視点を私にもたらしました。

その後2年間マーケティング部門に配属となり、江戸時代の宮中有職故実、武家装束や調度品を展示する文化イベントや、数千人の消費者が関わるきもの展示会などの販売促進企画担当者として働きました。

この体験から、私は後にアートフェアに参加して、主催者と参加者、アーティストとバイヤー、付加価値商品として類似の価格帯を持ち作品との出会いを作るフェアの存在は時代や取り扱う内容が変わっても、基本的スタイルは同じであることを理解しました。

Q9.どのようなプロジェクトを今作業していますか？2018年に何を計画していますか？

1.新アトリエ

—東京郊外の古家をリノベーションし新しいアトリエをデザイン設計しています。スタジオビジットはもちろんのこと、マルチに使えるインスタレーションスペースを計画しています。

2.ワールド・アート・ドバイ 2018-

—今年4月に初めて経験したイスラミックデザインからインスピレーションを得た作品を出品したいと考えています。それは今までとは別の形になるかもしれません。私は単に止まらずに創造を表現する場所がほしいのです。

3.物理学者とのコラボレーション-

—アクセシブル・アートフェアで偶然出会った日本人物理学者は一目で私が何を表現しようとしているのか理解してくれました。私のこれまでの作品を理論的に立証する専門知識を彼らは持ち合わせています。何年かかっても私は彼らとのコラボレーションを実現させたいと思っています。